



JASIリサーチメモ

R6-08号：2025年2月3日

中国におけるロケット軍建設

－シリーズ④－西部戦区の組織編成及び部隊所在地について

防衛戦略研究室 防衛事務官 千綿 るり子

一 項 目

1 趣 旨

2 ロケット軍西部戦区の概要

- (1) 第64基地の歴史的経緯
- (2) 「利刃」特戦部隊

3 第64基地の組織編成及び部隊所在地等

- | | | |
|-------------------|-------------------|-----------------------|
| ① 中国軍の組織編成図 | ② ロケット軍部隊の編成及び所在地 | ③ ロケット軍第64基地(96604部隊) |
| ④ 第641旅団(96741部隊) | ⑤ 第642旅団(96742部隊) | ⑥ 第643旅団(96743部隊) |
| ⑦ 第644旅団(96744部隊) | ⑧ 第645旅団(96745部隊) | ⑨ 第646旅団(96746部隊) |
| ⑩ 第647旅団(96747部隊) | ⑪ 訓練連隊(96841部隊) | ⑫ 装検旅団(96034部隊) |
| ⑬ 通信連隊(96842部隊) | ⑭ 作戦保障連隊(96843部隊) | ⑮ 総合保障連隊(96844部隊) |

4 評 価

1 趣 旨

本資料は、「中国におけるロケット軍建設」に関して、「シリーズ③南部戦区の組織編成及び部隊所在地について」に続き、西部戦区の組織編成及び部隊所在地についてまとめたものである。作成に際しては東部や南部戦区同様、公開情報(*1)により旅団レベルまではその所在地を確認できたが、大隊レベル以下の細部編成についてはその確認が難しいことから、米空軍の中国航空宇宙研究所(CASI)発表の「人民解放軍ロケット軍の組織」(*2)に従いまとめた。

2 ロケット軍西部戦区の概要

中国ロケット軍は中国全土に9か所の基地を有しており(*3)、この内、西部戦区(基本的に新疆ウイグル自治区、チベット自治区、青海省、甘肅省、寧夏回族自治区、四川省、重慶市)には、第64基地及び第69基地の一部が所在している。

本資料では、この内の第64基地を取り上げる。

(1) 第64基地の歴史的経緯

ロケット軍第64基地の歴史的経緯は、中国初の戦略ミサイル部隊の編成まで遡ることができる。以下、その経緯を概観する。

中国軍は1958年5月、北京市の長辛店において中国初の地対地戦略ミサイル第1大隊を編成し、翌年1959年4月には戦略ミサイル部隊の技術者養成のために甘肅省の武威地区武威県に「砲兵特種技術学校」を設立しており、対外的には「武威砲校(コードネーム159部隊)」と称した。

この内、地対地戦略ミサイル第1大隊は同年10月、北京市から甘肅省武威地区に移転され、武威砲校に帰属して「砲兵第802大隊(*4)」と称され、発射訓練任務も担った。そして、同大隊は1963年9月、武威から甘肅省の酒泉国防科技委員会の試験基地まで移動して実弾発射を行っており、翌月10月25日に初の地対地戦略ミサイル「東風1号」の発射に成功した(*5)。

*1:温約瑟「中国人民解放军基地及び施設」https://umap.openstreetmap.fr/en/map/by_77487#11/19.7751/110.7003; Decker Eveleth “People’s Liberation Army Rocket Force of Battle 2023” James Martin Center of Nonproliferation Studies Middle Institute of International Studies at Monterey, JULY 2023; 陳振国、杜建明「中共火箭军战术弹道导弹对我军事之威胁与因应对策(中国共産党ロケット軍戦術弾道ミサイルの台湾軍に対する脅威と対策)」『海軍學術隔月刊』第51巻第6期; 陳振国「浅析中共『火箭军』发展与运用(中国共産党『ロケット軍』の発展と運用に関する分析)」『海軍學術隔月刊』第55巻第1期等

*2:Ma Xiu “PLA ROCKET FORCE ORGANIZATION” China Aerospace Studies Institute, <https://airuniversity.af.edu/Portals/10/CASI/documents/Research/PLARF/2022-10-24%20PLARF%20Organization.pdf> (August 5, 2024)。以下、CASIレポートと略する。

*3:『環球時報』2015年9月1日。

*4:JASIリサーチメモ「中国におけるロケット軍建設—シリーズ①—ロケット軍の戦略」(R6-03号:2024年8月27日)では、7頁において、地対地ミサイル「東風1号」の発射に成功した「砲兵第802大隊」について西安所在の第2大隊と推定していたが、正しくは、北京の長辛店から移転し武威砲校に帰属したミサイル第1大隊である。

*5:『中国軍網』2021年2月8日。

1964年1月31日、1960年から1961年にかけて編成されていた5個地対地ミサイル大隊が、5個地対地ミサイル連隊へと拡充され(参照:右図)、ミサイル第1大隊は「砲兵第801連隊」となり、1966年6月には武威を離れ中国南方の基地に移転して核反撃任務を担うこととなった。

一方、文化大革命の真ただ中、中央軍事委員会の命令により武威砲校は廃止され、同校をベースに1969年9月、ロケット軍第64基地の前身組織となる第56基地(コードネーム:126部隊)が編成された。

そして文革が終わる頃の1976年、第56基地は青海省西寧市へ移転した(*6)。その後、2015年末以降の軍改革に伴い、第56基地(司令部:西寧市)は第64基地へと改編された。

以上、第64基地は武威砲校の設立まで遡ることができ、中国初の戦略ミサイル部隊の母体として発展してきた歴史的経緯があると言えよう。

また、この第64基地の司令部については、報道(*7)やネット上に流布されている情報によれば、西寧市と蘭州市に所在しているとされ細部不明であるも、第56基地から第64基地への改編に際して西寧市から蘭州市へ移転された可能性が考えられ、以下、本資料は蘭州市を司令部所在地として作成した。

(2)「利刃」特戦部隊

ロケット軍西部戦区の特徴として、第64基地が特殊部隊を有することを挙げられる。

ロケット軍の特殊部隊である「利刃」特戦部隊は、2006年にミサイル発射の誘導、攻撃効果の偵察、反撃・襲撃等の任務遂行のため編成されている。特に近年は偵察任務を遂行しており、密林で連続5か月間に亘り数個ミサイル旅団と対抗訓練を実施するなどしている(*8)

また、「利刃」特戦部隊は、ロケット軍基地の防衛任務を担うとともに、核ミサイルの護送という極秘任務を担っているとも言われる(*9)。

3 第64基地の組織編成及び部隊所在地等

5頁以降の①から⑮に示すとおり。



*6:「師・部の故事の一つ:武威新城大院の前世と現世」『甘肅民航テレビ放送局網』2022年3月7日、<https://imhtv.com/50/50whpjwz/305883380.shtml>

*7: 陳振国「浅析中共『火箭军』发展与运用」『海軍學術隔月刊』第55卷第1期

*8:「二砲の利刃特戦隊、素手でレンガを割り肘で瓶を破壊することは最低限の要求」『新浪軍事』(『人民日報』の転載。) 2013年11月17日。

<https://mil.news.sina.com.cn/2013-11-17/1201749923.html>

*9:『利刃』が掌握する『長剣』は、戦略的反撃任務を担う』『大公報』2019年9月2日。<https://takungpao.com/news/232108/2019/0902/343983.html>



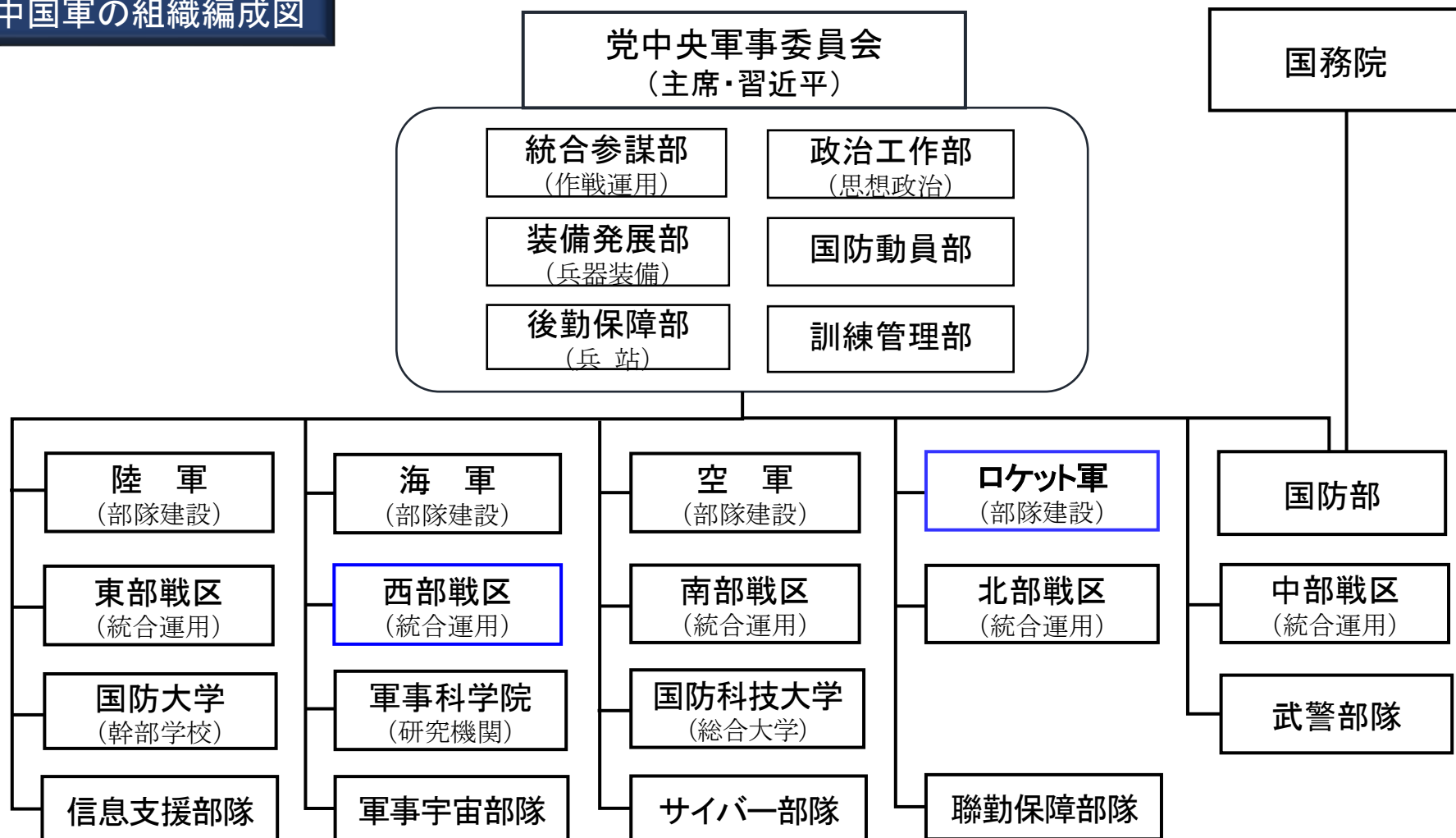
4 評価

ロケット軍第64基地のミサイルは、単純にミサイルの射程からみれば、第646旅団を除き全て大陸間弾道ミサイルであり、米国本土向けとみられる。第646旅団については、インドやロシア等が射程に入ると言えよう。

また、第64基地のミサイル旅団や後方支援部隊は、Google Earthによれば、基地司令部の施設を含めその大半が近年新設又は増設されている状況が確認された。特に、第64基地隷下の3個旅団(第644旅団、第645旅団及び第647旅団)は新編部隊と言われるが、Google Earthによれば、この3個旅団はいずれも2016年以降、それまでは更地であった場所において新しく且つ大規模に施設が建設されている状況を確認でき、報道にあるとおり新編部隊である可能性が高いだろう。

さらにこの3個旅団は、最新の大陸間弾道ミサイル「DF-31AG」(2017年7月の軍事パレードで初披露)又は「DF-41」(2019年10月の軍事パレードで初披露)を装備しているとされ、近年のこうした部隊建設状況からみれば、米国向けのミサイル増強に力を入れている状況が窺えるだろう。

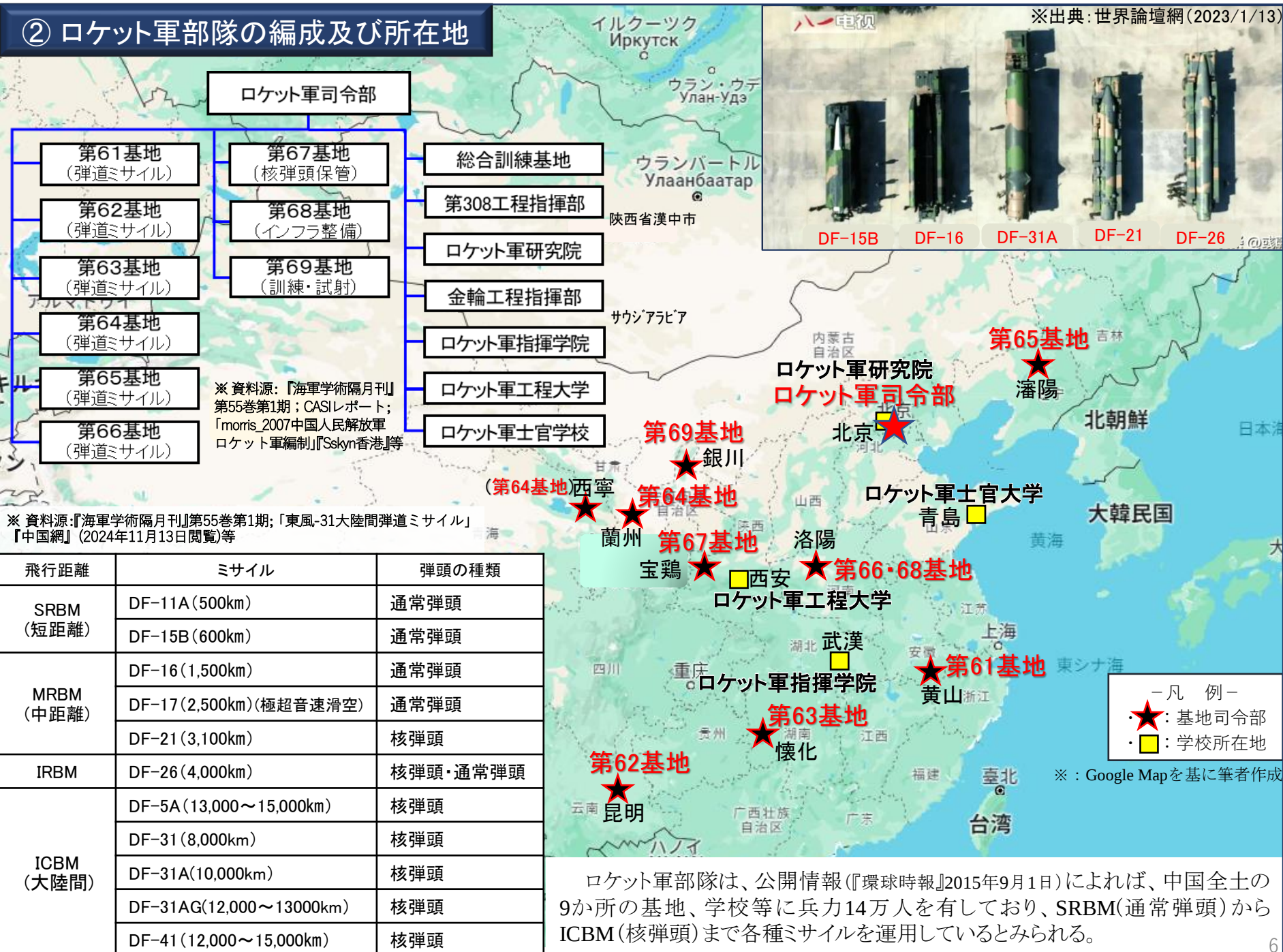
① 中国軍の組織編成図



中国人民解放軍全体の組織編成については、中央軍事委員会(主席:習近平)の下に、各軍種(陸・海・空・ロケット)、各戦区(東部・西部・南部・北部・中部)等が同じ並びで置かれ、それぞれが中央軍事委員会から直接指揮・指導を受ける体制がとられている。

この内、中国において核兵器やミサイルの運用を担当してきた第2砲兵は2015年末、第2砲兵からロケット軍へと改称され、陸・海・空軍と並ぶ軍種へ格上げされている。

② ロケット軍部隊の編成及び所在地



③ ロケット軍第64基地(96604部隊)

旧56基地(旧96351部隊)

新疆

★**コルラ 646旅団**
・DF-26

コロナ対策用

テント×36張
★**第64基地司令部**

35° 56'17"N 104° 00'52"E
(甘肅省蘭州市榆中県定遠鎮
東部科技新城金科路156号)

天幕×29張

★**作戦保障連隊司令部**

車庫区

2022/11/25以降

Google Earth (Maxar Technologies)
2010/8/15以前

★**更地(2006年10月)**

Google Earth
(Geo Eye/Maxar Technologies)
2010/10/15以前

Улаанбаатар

★**第64基地**
(96604部隊)

資料源: CASIレポート122頁

モンゴル

96604部隊
医院

★**第641旅団**
(96741部隊)

★**第642旅団**
(96742部隊)

★**第643旅団**
(96743部隊)

★**第644旅団**
(96744部隊)

★**利刃特戦隊**
(96604部隊)

★**第645旅団**
(96745部隊)

★**第646旅団**
(96746部隊)

★**第647旅団**
(96747部隊)

★**装検旅団**
(96034部隊)

★**訓練連隊**
(96841部隊)

★**通信連隊**
(96842部隊)

★**作戦保障連隊**
(96843部隊)

★**総合保障連隊**
(96844部隊)

甘肅省
★**玉門**

内モンゴル
★**吉蘭泰**

★**銀川 645旅団**・DF-31AG

・DF-31A(AG) ★**642旅団**

青海省

★**大通**

★**第64基地司令部**

・DF-41 ★**647旅団**

★**西寧**

★**蘭州**

★**寧夏**

★**韓城 641旅団**・DF-31(A)

・DF-31A(AG) ★**643旅団**

★**天水**

★**陝西省**

★**漢中 644旅団**

・DF-41

四川省

ー凡 例ー

★: 旅団司令部

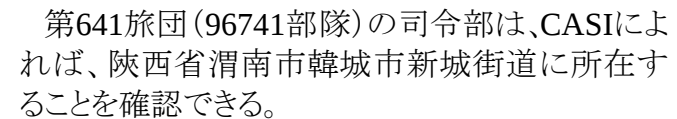
⊗: サイロ群

※: Google Mapを基に筆者作成

西部戦区(新疆ウイグル自治区、チベット自治区、青海省、甘肅省、寧夏回族自治区、四川省、重慶市)には、第64基地(96604部隊)が存在する。この96604部隊は、第641旅団から第647旅団までを有しており、その司令部は、公開情報(「混合式球面退化識別模型の設計とコード」『万方数据』(<https://d.wanfangdata.com.cn/periodical/chxyxb201204013>)から、甘肅省蘭州市榆中県定遠鎮東部科技新城金科路156号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、同基地は、2006年10月時点では更地で施設そのものを確認できないが、2010年8月時点では既に建設中であり、2012年9月21日には概成している状況が確認された。

旧806旅団(96111部隊)



CASIによればDF-31(核弾頭)を装備しており、
温約瑟によればDF-31Aを装備しているとされ、
DF-31シリーズを装備しているとみられる。

また、溫約瑟によれば、旧806旅団は中国でDF-31を2番目に装備した旅団であるという。DF-31は1999年10月の軍事パレードで初披露されているが、Google Earthによれば、2003年3月24日には既に当該場所に部隊が所在していたことが確認される。

⑤ 642旅団(96742部隊)

旧809旅団(96361部隊)

第642旅団

発射第1大隊

通信大隊

技術大隊

×6

作戦保障大隊

総合保障大隊

資料源:CASIホームページ125頁

コルラ

新疆维吾尔自治区

2011年6月6日

「DF-31A」TEL×6

20m

第642旅団(96742部隊)司令部は、公開情報(redtsai「ロケット軍」2019/12/2 https://redtsai.blogspot.com/2019/12/blog-post_91.html) から、青海省西寧市 大通回族土族自治县 八一路に所在することを確認できる。

「漢和防務評論」(「南海網」2012/5/17 <https://m.sohu.com/n/343385422/>)によれば、2011年6月6日の衛星画像においてDF-31AのTEL×6輦が確認されることから、2011年には旧809旅団においてDF-4(核弾頭)からDF-31A(核弾頭)への換装が始まっていたとされる。

その後、CASIがDF-31AGへ換装された可能性に言及しているが、Google Earthによれば、2024年10月3日時点でDF-31AG特有の施設(参照:12頁)は確認できず、細部は不明である。

なお、Google Earthによれば、2003年3月24日には既に当該場所に部隊が所在していた状況が確認された。



Google Earth (Maxar Technologies)2011/6/6以前

2011年6月頃

第642旅団司令部

Google Earth(Airbus)2024/10/3

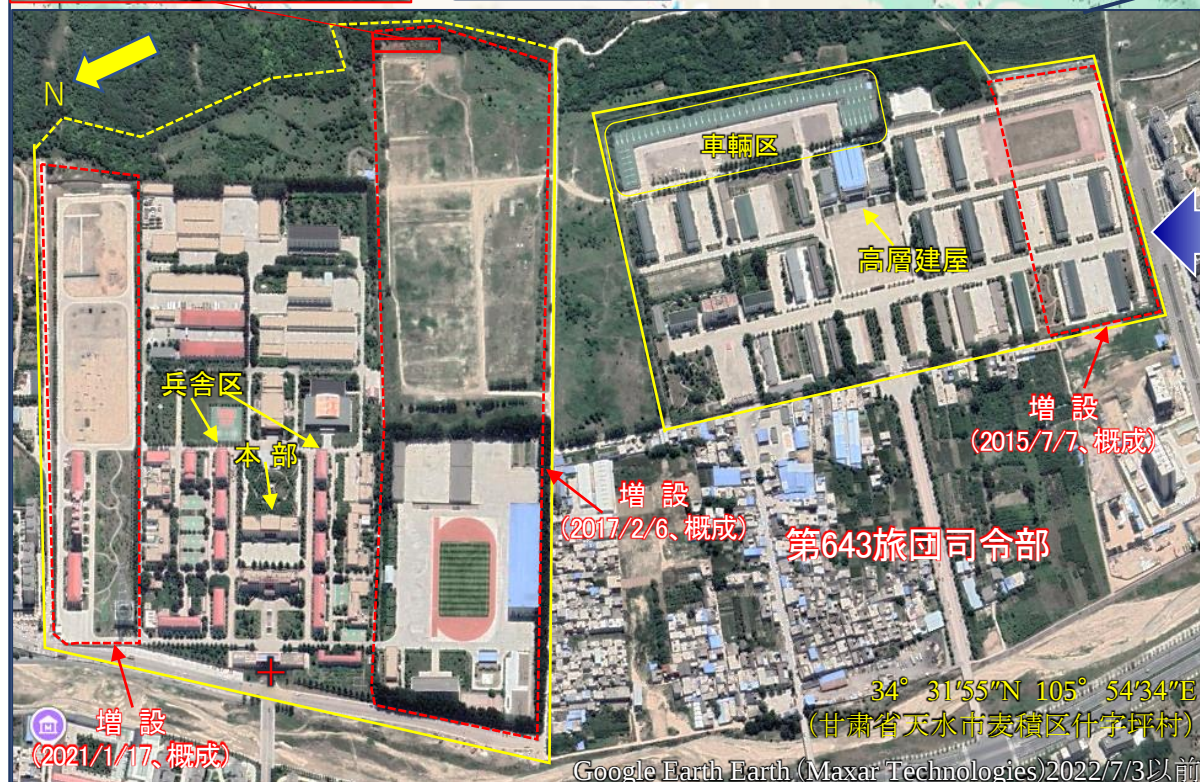
36° 56'59"N 101° 40'05"E(青海省西寧市大通回族土族自治县八一路)

⑥ 643旅団(96743部隊)

旧812旅団(96363部隊)



这里就是战场
(ここは戦場だ)



第643旅団(96743部隊)の司令部は、公開情報(redtsai「ロケット軍」2019/12/2)から、甘肅省天水市麦積区什字坪村に所在することを確認できる。

CASIや温約瑟によればDF-31AG(核弾頭)を装備しており、温約瑟によればDF-31AGを最初に装備した旅団とされるが、DF-31AG特有の施設(参照:12頁)は確認できず、細部不明である。

他方、DF-31AGは2017年7月の軍事パレードで初披露されており、Google Earthによれば、2007年4月16日時点で更地であった箇所において、2015年以降徐々に施設の増設がなされた状況が認められ、これらはDF-31AGの装備に伴うものであった可能性も考えられる。

- 銀川 645旅団・DF-31AG
- 642旅団大通
- DF-31A(AG)
- 647旅団西寧
- 第64基地司令部
- 蘭州
- 韓城
- 641旅団・DF-31(A)
- 漢中
- 644旅団・DF-41
- DF-31AG 643旅団天水

— 凡 例 —

★: 旅団司令部

※: Google Mapを基に筆者作成



这里就是战场
(ここは戦場だ)



⑦ 644旅団(96744部隊)

新編部隊

アルマトゥイ

2019年10月の軍事パレードで
初披露された「DF-41」



維吾ル自治区

出典:『新華網』2019/10/1

新华网

第644旅団

発射第1大隊

通信大隊

技術大隊

作戦保障大隊

総合保障大隊

資料源:CASIホト127~128頁

第644旅団(96744部隊)司令部は、公開情報(「96744部隊事務室2階装飾及び弱電改修工事に係る公告」『湖南省軍民融合公共服務平台』2020/3/19、<https://www.hnjmrh.gov.cn/newweb/demand/detail/2713>)から、陝西省漢中市漢台区龍江鎮に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2001年3月時点では更地であり施設そのものを確認できないが、2013年12月16日には既に施設が建設され運用が始まっている状況が確認された。その後、2016年4月28日時点まで施設そのものに顕著な変化は見られなかったが、2021年1月8日時点で既に現在の広さまで拡大している状況が確認された。

CASIや温約瑟によれば、DF-41(核弾頭)を装備しているとされるが、DF-41は2019年10月の軍事パレードで初披露されており、施設の拡大はDF-41の装備に伴うものであった可能性が考えられる。



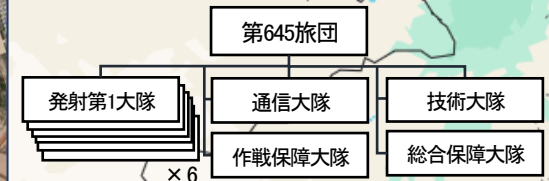
Google Earth(CNES/Airbus) 2021/3/15以降



⑧ 645旅団(96745部隊)

新編部隊

交互に配置された車庫
「DF-31AG」特有の施設



資料源: CASILポータル129頁

－凡 例－

★: 旅団司令部

※: Google Mapを基に筆者作成



第645旅団(96745部隊)の司令部は、公開情報(「寧夏96745部隊音声周波数建設項目入札終了公告」『建築設計1号網』2019/11/1、<https://jzsj1.com/g-jianzhusheji-9976166904--37101647.html>)から、寧夏回族自治区银川市西夏区文昌北街52号(左図)に所在することを確認できる。

他方で温約瑟によれば、银川市金鳳区の施設(左上図)も、第645旅団の関連施設であるという。Google Earthによれば、当該施設所在地は、2019年5月12日時点では更地であるが、2020年10月27日時点で既に建設中であり、2022年4月30日時点で概成している状況が認められた。

この新規施設においては、DF-31AG特有の施設が確認されることから、施設の新設はDF-31AGの装備に伴うものであったと考えられる。



第645旅団司令部

旧807旅団(96365部隊)



2019年10月の軍事パレードで 披露された「DF-26」



第646旅団司令部



車輛区

車輛区

高層建屋
(2019/3/7、概成)

高層建屋
(2013/1/10、概成)

41° 41'43"N 86° 10'26"E(新疆ウイグル自治区コルラ市石化大道86号)

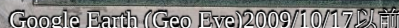
第646旅団(96746部隊)の司令部は、公開情報(「96746部隊倉庫改修項目」『璦博市産業融合發展服務平台』2019/2/15 <http://8.131.109.91:6198/g10xlbzjs/13139.jhtml>)から、新疆ウイグル自治区バインゴリン・モンゴル自治州コルラ市石化大道86号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、同司令部の施設は、2004年10月14日時点で工事が始まっており、2009年10月1日時点で概成している状況が認められた。その後も、2013年1月10日時点で高層建屋1棟が増設され、2019年3月7日時点で更に高層建屋1棟が増設されている状況が確認された。

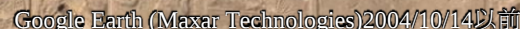
CASIによれば、DF-26(核・通常弾兼備)を装備しているとされるが、DF-26は2015年9月の軍事パレードで初披露されており、中国国防部報道官は2018年4月26日、DF-26について既に実戦配備していることを明らかにしていた。このため、施設増設はDF-26への換装に伴うものであった可能性も考えられる。



概成(2009年10月)



着工(2004年10月)



⑩ 647旅団(96747部隊)

新編部隊

第647旅団

発射第1大隊

通信大隊

技術大隊

作戦保障大隊

総合保障大隊

資料源:CASIレポート132頁

キルギス

コルラ★

第647旅団(96747部隊)の司令部は、公開情報(「中国人民解放軍96747部隊暗視装置調達公告」『特種装備網』2023/6/26 https://wap.tezhongzhuangbei.com/zfcg_nr_1180267.html)から、寧夏回族自治区西寧市城東区八一東路29号(下図)に所在することを確認できる。CASIもまた、当該場所に第647旅団が所在するとしている。

Google Earthによれば、同司令部は、少なくとも2006年5月29日時点までは更地であったが(右下図)、2009年8月29日時点で建設中、2011年9月15日には概成している状況が確認された。この敷地内には、警備塔(茶色の○)と高い壁(下図の赤枠)で囲まれた場所があり、厳重に警備されている状況が窺える。このような警備のやり方は、中国では刑務所等の施設において認められるものであり、ロケット軍におけるこのような警備状況は、特異なものと言えよう。

なお、警備塔や高い壁は2009年8月29日時点で既に認められた。

また、温約瑟によれば、西寧市湟中県示B家莊にも第647旅団の関連施設が所在する(右上図)。同施設の所在地は、Google Earthによれば、2017年2月11日時点で更地であったが、2022年1月20日時点で概成している状況が確認された。

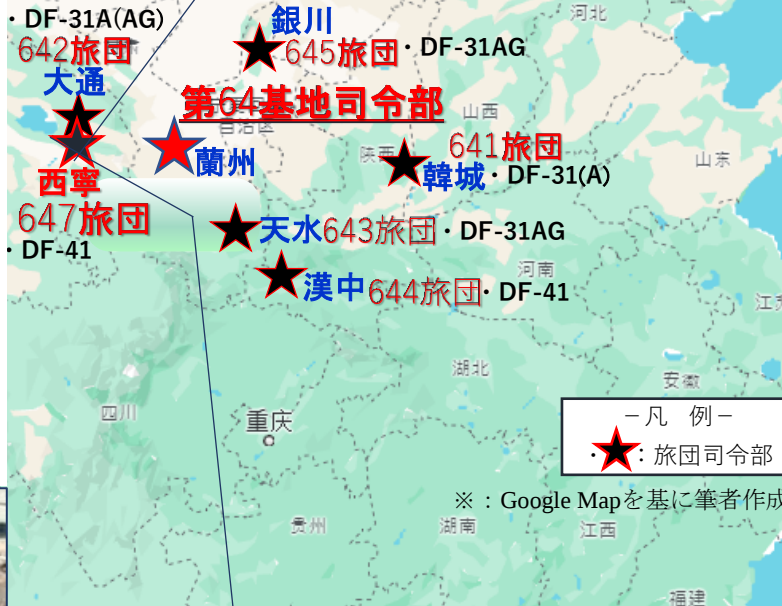
CASIによれば、第647旅団は新編部隊であり、DF-41(核弾頭)を装備していると考えられ、施設の新設はDF-41の装備に伴うものである可能性が考えられる。

更地
(2017年2月)

Google Earth (Maxar Technologies) 2017/2/11以前

36° 29'09"N 101° 37'24"E(寧夏・西寧市湟中県)

Google Earth (Maxar Technologies) 2022/1/20



⑪ 訓練連隊(96841部隊)

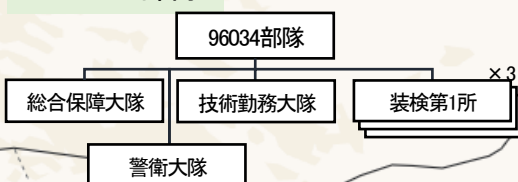
旧96371部隊

訓練連隊(96841部隊)の司令部は、公開情報(「西寧市生態環境分野問題改善任務リスト(2023年7月)」『<https://www.huangzhong.gov.cn/upload/remote/95fc08beb1b1629822ddcf2ca0421daa.pdf>』から、青海省西寧市湟中県上五荘鎮に所在することを確認できる。



⑫ 装検旅団(96034部隊)

旧96377部隊



資料源：CASIレポート138頁



※：Google Mapを基に筆者作成

装検(装備検査)旅団の(96034部隊)の司令部は、CASIによれば、西寧市湟中県上五荘鎮納ト蔵村に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2004年3月12日時点で訓練連隊司令部の施設も含めて既に建設中であり、2013年10月8日時点で既に概成し、運用されている状況が確認された。

訓練連隊及び装検旅団ともに比較的新しい施設とみられる。

なお、この96034部隊の保障部調達センターは、公開情報(「某単位の2022年度副食品調達項目」『[甘肃経済信息网](https://www.gansu.gov.cn/jingji/2022/09/25/)』2022/9/25)から、甘肅省臨夏州和政県にも所在する。

⑬ 通信連隊(96842部隊)

旧96375部隊

資料源：CASIレポート134頁

96842部隊

通信第1大隊 × 3

コルラ ★

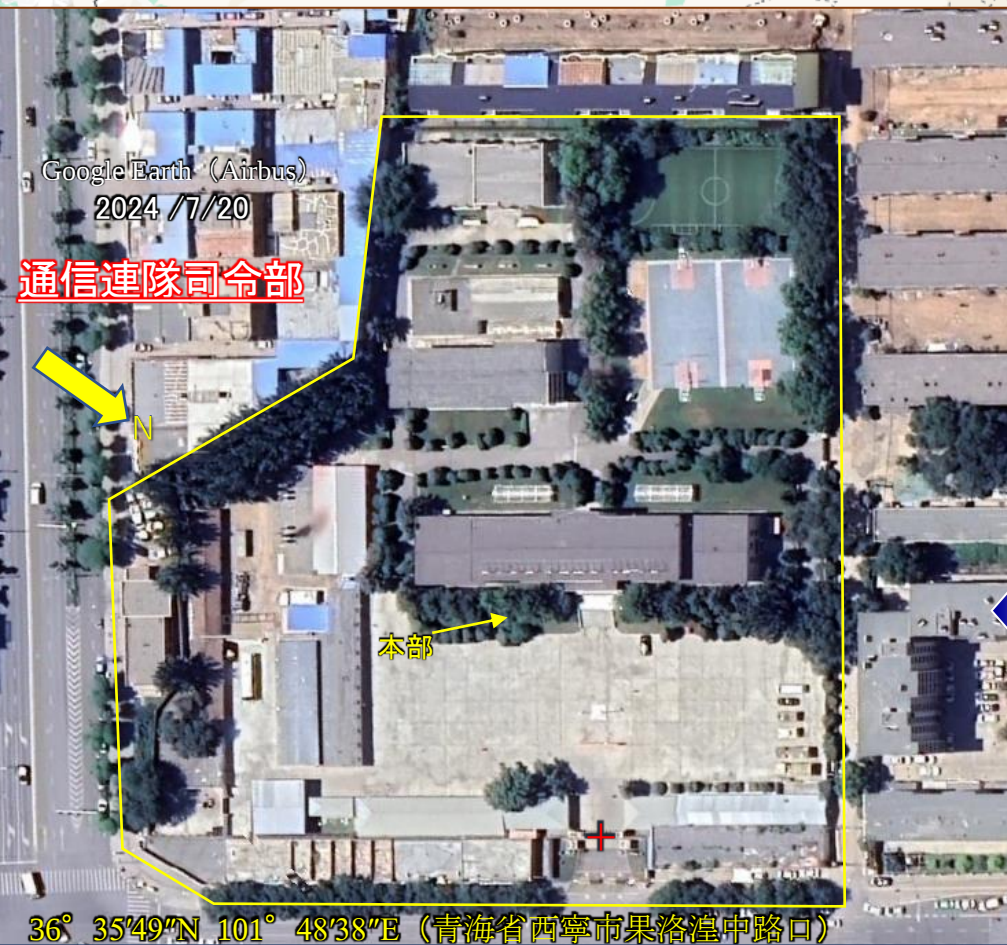
新疆维吾尔自治区

通信連隊(96841部隊)の司令部は、公開情報(Redtsai「ロケット軍」2019/12/2)から、青海省西寧市果洛路湟中路口に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2005年5月8日時点で、既に当該場所に部隊が所在している状況が認められる。

— 凡 例 —
★: 旅団司令部

※: Google Mapを基に筆者作成



⑭ 作戦保障連隊(96843部隊)

旧96376部隊

資料源：CASILポ ート134～135頁

96843部隊

気象台

警衛防化大隊

測地隊

工兵中隊

キルギス

コルラ
新疆维吾尔自治区

作戦保障連隊(96843部隊)の司令部は、公開情報(「96843部隊気象水文ネットワーク信息系统建設項目調達募集二次公告」『甘肅經濟信息网』2019/12/12 <https://manage.gsei.com.cn/html/1337/2019-12-12/content-262029.html>)から、甘肅省蘭州市榆中県定遠鎮東部科技新城金科路156号に所在することを確認できる。

Google Earthによれば、2014年頃から2018年頃まで、作戦保障連隊司令部の所在地は、訓練場所として使用されてきたとみられる。その後、2020年4月8日時点で着工の状況が認められ、2022年1月1日時点で概成しており、同年10月18日には運用されている状況が確認された。一部の施設は、同年11月25日時点でもなお建設中とみられる。

Google Earth(Maxar Technologies)

2022/11/25以前

第64基地司令部

作戦保障連隊司令部

本部

建設中の施設

35° 56'10"N 104° 00'25"E
(甘肅省蘭州市榆中県定遠鎮東部科技新城金科路156号)

・ DF-31A(AG)
大通
西寧
・ DF-41

銀川・ DF-31AG

第64基地司令部

蘭州

天水

・ DF-31AG

漢中

・ DF-41

韓城

・ DF-31(A)

※ : Google Mapを基に筆者作成

— 凡 例 —

・ ★ : 旅団司令部

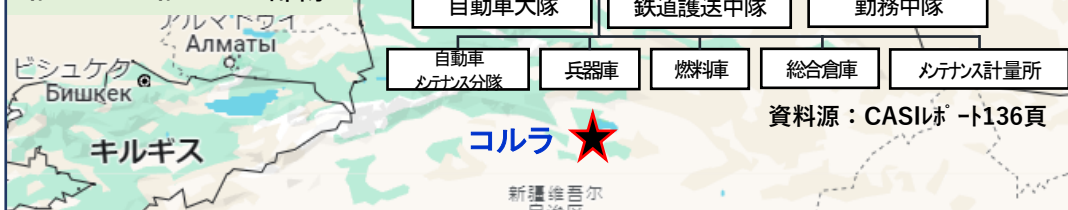
Google Earth(Maxar Technologies)2018/3/12以前

2018年3月頃

訓練場所

⑮ 総合保障連隊(96844部隊)

旧96374・旧96372部隊



総合保障連隊(96844部隊)司令部は、公開情報(「人社通」<https://file.m12333.cn/upfile/download/4be80bed-f7cc-3a0f-537d-055d4b6c1c7d.xls>) から、甘肅省蘭州市焦家湾東路26号に所在することを確認できる。

他方、CASIによれば、青海省西寧市城北区大堡子鎮西杏園村にも96844部隊の司令部が所在するとされるが、こちらは鉄道の線路が直結している状況が確認され、鉄道護送中隊である可能性も考えられる。



【研究者紹介】(防衛戦略研究室員)

博士(安全保障)。2015年3月、拓殖大学国際協力学科安全保障専攻博士課程修了、博士論文「中国人民武装警察部隊に関する研究－武警部隊と解放軍の関係と将来像－」。専門は中国の準軍事組織(中国人民武装警察部隊、海警、海上民兵等)や中国の宇宙開発等。著書(共著)に2008年茅原郁生「中国の軍事力－2020年の将来予測－」蒼蒼社

本リサーチメモにおける見解は、航空自衛隊幹部学校航空研究センターにおける研究の一環として発表する執筆者個人のものであり、防衛省又は航空自衛隊の見解を表すものではありません。